

わたしたちの北海道を開いた人々

小学校4年 社会科

I 実践の目指しているもの

本単元は、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を通して、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることを目指している。今回教材化した先人は、島義勇である。島義勇は、明治初期、未開の札幌に開拓使の開拓判官として訪れた人物である。在任期間わずか3か月ではあったが、札幌本府の位置を定め、札幌のまちのランドデザインを描くなど大きな功績を残している。彼を取り上げて単元構成を行うことで、札幌を切り拓き、現在の大都市になるための基礎を築いた苦心や、ひいては北海道の発展に寄与した功績を捉えることができると考える。

その後の開拓使が計画を引き継ぎ、札幌に北海道庁の本庁が設置され、赤れんが庁舎は北海道の開発の拠点となった。島義勇をはじめとする先人達が、札幌のまちを切り拓いていった歴史を学ぶことは、これからの未来を切り拓いていく札幌の子どもたちにとって重要であると考えます。

II 研究の内容

1 単元名

<第6単元>郷土の発展につくす <小単元2>わたしたちの北海道を開いた人々

2 単元の目標

島義勇をはじめとする先人達が札幌のまちを開いた頃のことについて関心をもち調べていく中で、札幌のまちを拓く上での願いや苦心を捉え、それを乗り越えようとしたことについて考えるとともに、それが札幌の礎を築き、後の北海道の発展に影響を与えたことを理解し、札幌や北海道の歴史を理解することができる。

3 単元の指導計画（8時間扱い）

時	目 標
1	1872年と1882年の札幌の様子を比較することで、未開の地・札幌の10年間の変化に注目し、単元の学習問題を設定し、学習計画を立てる。 <単元の学習問題> この10年で札幌どのように拓かれていったのか
2	誰が原野だった札幌を開拓したのか 原野だった札幌の開拓について、全国から来た移民に着目し調べることで、強い心と体をもって訪れたこと、その中心人物であった島義勇について知る。
3	島義勇は、どのようにして本府をつくったのか 島義勇が札幌のまちを開いた様子について、人を集める工夫や生活の苦勞に着目して調べるとともに、決死の覚悟で本府を作っていたことに気付く。
4	【本時】 なぜ島義勇は、本府から遠いところに人々を移住させたのだろうか
5	屯田兵はどんな生活をしていたのか 屯田兵の役割や当時の環境について調べ、大変な苦勞をして過ごしていたことを理解する。
6	その後の札幌のまちづくりは、どのように進められたのか 島義勇が去ったあとの札幌のまちづくりの様子について調べ、島の計画が引き継がれ、その後札幌に設置された道庁が北海道開発の拠点となったことを理解する。
7・8	学習したことを『五州第一の都（世界一の都）』を目指した島義勇との対話にまとめ、発表し合う。

4 本時について

(1) 本時の目標

島義勇が出した移住命令について考える活動を通して、食糧や物資など、将来を見据えた札幌のまちづくりが行われたことを理解し、表現する。

(2) 本時の展開 (4/8)

子どもの意識の流れと学習活動	教師の具体的な手立て
<p data-bbox="159 504 1069 593"><前時まで> 島義勇の人物像や、島義勇が札幌にやってきて、どのような状況の中、本府づくりを行ったのかについて捉えている。</p> <p data-bbox="151 638 614 672">○島義勇の移住命令について考える。</p> <div data-bbox="295 683 1037 884"><p data-bbox="327 689 486 723">【移住命令】</p><ul data-bbox="327 728 550 869" style="list-style-type: none">・農民・男女 300 人・本府から離れたところ<p data-bbox="686 701 1021 772">あれだけ苦勞して本府を作ったのに!?</p><p data-bbox="686 795 1021 840">何か意味があるのかな…</p></div> <p data-bbox="231 907 1029 996">なぜ島義勇は、本府から遠いところに農民を移住させたのか。</p> <p data-bbox="151 1030 558 1064">○島義勇の意図について考える。</p> <div data-bbox="207 1086 1069 1377"></div> <p data-bbox="183 1400 1077 1512">島義勇は、周りの村から食糧や人を送って札幌本府を支え、発展させようとした。</p> <p data-bbox="151 1545 742 1579">○島義勇がいなくなった後の札幌の様子を比べる。</p> <div data-bbox="247 1601 1021 1792"></div> <div data-bbox="247 1814 1013 2004"><p data-bbox="279 1825 981 1982">・札幌のまちはどんどん大きくなっていった。 ・周りの村の地名や産業など、現在にも続いているものがある。 ・北海道全体としても発展していつているのではないか。</p></div>	<p data-bbox="1109 672 1452 817">・島義勇が行った移住命令について、内容を捉えられるようにするために、札幌の地図で移住先を提示する。</p> <p data-bbox="1109 974 1452 1086">・空間的に捉えられるように、地図を活用して、それぞれの村の場所をおさえる。</p> <p data-bbox="1109 1164 1452 1310">・島義勇のねらったまちの広がりについて捉えられるように、本府にまとめて人を集めた場合と比べる。</p> <p data-bbox="1109 1467 1452 1579">・資料の読み取りをより確実にするために、ペア・小グループ交流を取り入れる。</p> <p data-bbox="1109 1702 1452 1915">・地図を使いながら、札幌のまち全体が大きくなっていったこと、当時作られた周りの村が現在にも続いていることに気付けるようにする。</p>

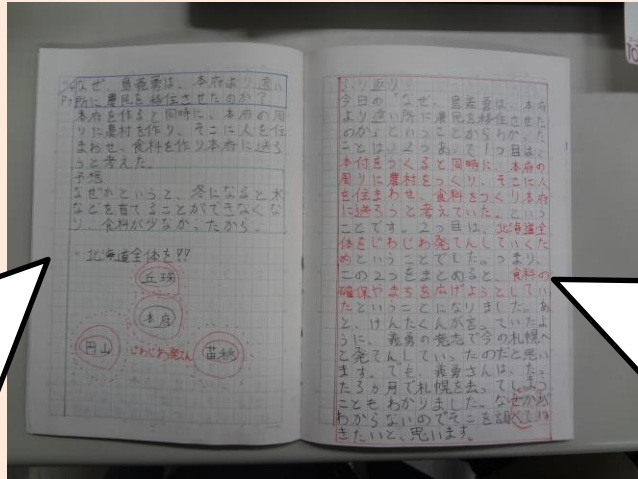
5 実践のポイント

【成 果】

□単元を通した学びの中での子どもの姿から。

- ・これまでの積み上げから、本時の学習問題を解決する姿が見られた。

既習である、北海道の厳しい環境と苦しい生活における食料難の視点から、本時の学習問題を解決しているという記述が見られた。全体交流の中で、北海道の発展の視点も出てきた。



授業の最後の振り返りでは、食料確保の面と北海道の発展の面の2つの視点からまとめられている。また、島義勇がその後、3か月で去ったことへの疑問や、その後のまちづくりの展開についても予想して書いている。

- ・「単元のまとめ ～ 島義勇との対話」から、札幌に誇りをもった内容が見られた。

- 島のまちづくりへの情熱・思いについて
- まちづくりにおける自分たちの考え（継承意識）
- 身近な場所への意識の変容（北海道神宮、道庁など）

□前年度の実践に引き続き、この学習で「札幌・北海道開発の出発点」を捉えることができ、「地域の歴史」と関連付けることで、地域が開拓された理由など自分の住む地域に対する理解を一層深められた。

□札幌・北海道開発の歴史を学んだことで、「道庁赤れんが」「クラーク像」「屯田兵村兵屋跡」「北海道神宮」のように、子どもがこれまで何気なく見ていた「札幌ならではの歴史的なものや場所」に対する見方や考え方を変わるきっかけとなった。

□札幌・北海道を開いた先人について島義勇を中心にまとめた自作のテキスト「きょう土の発展につくす～北海道をひらいた人々～」を活用することで、効果的に学習を進められた。

【課 題】

■学習を積み上げていく中で、歴史的背景についてある程度理解しておかなければ、学習問題を解決に導くことは難しい。特に、北海道の開拓目的について、他国からの侵攻を防ぐ目的があったことなどについては、地図を活用し、空間的に捉えておくことが重要である。そうすることで、本時で川の重要性を浮き彫りにすることができる。

■自作のテキスト「きょう土の発展につくす～北海道をひらいた人々～」の内容面について、更に厳選し改善を図る必要がある。